

現実可能な想像今ある物を生かす

城北中 三年 多田宙史

僕はこの計画を聞いて新しい物を造るので

はなく今あるものにつけくわえていくスタイル

ルがいいのではないかと思つた。そこで自分

が提案するのは乙川に無数にある桜の木の下

の斜面に長い木製のやぐらをとりつけるのは

どうかと考える。

なぜそう考えたかと言つて道路の拡張案など

ではどうしても乙川をうめたり今ある緑をけ

ずたりしなけねばならない。また公園など

を作ることも乙川のどう水時にそれかながそれ

てしまふ可能性も充分に考えうねる。しかし

この案であれば花火の時期にできる花火やぐ

らの縮小は人だと考えてもうえればわかるよ

うに取りはずしもかのうでさらに今ある物を

いっさいくずす必要がない。この点からせ

ち後のかとりやせつちの予算も他の案のもの

よりも安くできると思う。そしてこの案の利

点はコストがぐ減だけではなく次にながるこ

てか、できることだ。他の案ではそれを作っ
てしまふと次にやりたいことができてそれ
じゃ、こうするにはそれをおす必要があ
るし、か、こゝにならば一部かいたいな
ぞ、り、人、き、あ、う、へ、人にたい
あ、う、して、いく、ことが、でき、あ、う、
した、か、う、で、自分、は、この、リ、バ、
ン、フ、ロ、ン、ト、計、画、を、二、時、的、に、
やる、の、で、は、なく、その、時、ど、き、の、
じ、う、き、よ、う、に、あ、あ、せ、て、作、り、
上、げ、て、い、け、る、そ、う、な、き、そ、
を、ま、ず、初、め、に、作、っ、て、い、く、の、
が、い、い、の、で、は、な、い、か、と、思、う、
。、その、た、め、に、こ、の、振、張、性、に、
て、人、だ、僕、の、ア、イ、デ、イ、ア、は、
ぜ、う、だ、う、か、。